

資源循環型施設建設に関する説明会 概要

【圏域全体】

1 開催概要

開催日時・時間	令和3年6月3日（木）19：00～20：45	
開催場所	サントミュージゼ小ホール	
出席者	住 民	59名（上田市45名、東御市7名、長和町2名、青木村2名、坂城町2名、その他地域1名）
	行 政	土屋広域連合長、吉澤上田市副市長 他関係職員13名
	報道関係	5社
説明要旨	①環境影響評価 配慮書の手続きの内容と結果 ②環境影響評価 方法書の手続き以降の進め方	

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	資源循環型施設の建設候補地について	資源循環型施設の建設地は予定地ではなく候補地としているが、予定地と候補地では何が違うのか。	現段階では建設候補地である。環境影響評価の結果を周辺地域の皆様に示し、御理解いただいてから予定地としたい。
2		清浄園用地への建設は諏訪部自治会が反対の立場であるにもかかわらず、事業が進んでいる経緯について伺いたい。	<p>建設候補地周辺の関係団体で構成される「資源循環型施設建設対策連絡会」と話し合いを続けてきている。当初はごみ処理施設の建設に反対という立場であったが、施設の必要性や、ごみを排出する一市民ということから真剣に議論いただいた結果、建設同意ではないが、環境影響評価の着手については、了承いただいた。</p> <p>諏訪部自治会は平成29年に対策連絡会を脱退し、現在も話し合いに応じてもらえない状況であるが、諏訪部地域住民の中には行政からの情報がほしいという方々もいるので、最新の正しい情報を伝え、御理解を得られるよう取り組んでいる。</p>

No	項目	質問・意見等	回答
3	事業の進め方について	環境影響評価実施の地元 の了承について、対策連絡会 だけではなく、より広範囲に 影響が及ぶ地域、上田市西部 地区の自治会等を含める必 要があるのではないかと。	対策連絡会の了承を得て、昨年 11 月から環境影響評価を実施し ている。対策連絡会は、構成する それぞれの自治会や団体の中で 協議し、行政との話し合いを続け てきた経過がある。諏訪部自治会 は話し合いに参加していないが、 行政として住民説明会等を開催 し、情報提供に努めてきた。地元 の範囲については、こうした取組 があることを御理解いただきたい。
4		地元の範囲を簡単に広げ るのではなく、科学的データ を今回のような説明会等で 市民に示し、それを市民が判 断していくという方法を取 るのが良いかと思う。(回答 不要)	
5		上田市西部地区の説明会 は開かれるのか。	今回の配慮書の段階では、上田 市西部地区での説明会の予定は していないが、今後、上田市西部 地区の自治会連合会等の皆様と 協議をさせていただき、必要とな れば、開催させていただく。
6	配慮書の手続き (調査項目につい て)	配慮書の大気質の調査項 目に PM2.5 を入れるべきで はないか。	配慮書で示した調査項目が全 てではない。今後実施する方法書 でどのような項目について調査 するのか検討する。

No	項目	質問・意見等	回答
7	配慮書の手続き (複数案の設定について)	建設候補地である、清浄園用地周辺しか環境影響評価を行っていないが、複数箇所を調査対象とすべきではないか。	<p>県の技術指針では、位置等に関する複数案の設定を基本とし、単一案とする場合には理由を明らかにすることとしている。</p> <p>当地域においては清浄園用地を候補地として選定した経過を説明することで、単一案で問題ないと考えている。</p>
8		過去の洪水被害からすると、今の清浄園用地を建設候補地に行っていることに疑問があるが、それを踏まえて造成高さを1mと5mの案に設定した根拠を説明してほしい。	<p>上田市災害ハザードマップにより造成高さを想定している。</p> <p>1mは100年に1度の確率での洪水、5mは1000年に1度の確率の洪水での浸水想定深さを考慮して設定している。</p>
9	環境影響評価の手続きについて	環境影響評価の中で、現クリーンセンターと資源循環型施設を比較して、何がどれくらい良くなるのかというものを示してほしい。	<p>環境影響評価とは、現在の清浄園用地周辺の状況を調査し、新しい施設ができた時に、どの程度環境影響を及ぼすのか予測・評価するものである。</p> <p>クリーンセンターから排出される排ガスの濃度は法律により基準が定められているが、資源循環型施設を造る際にはこの基準値を現在よりも更に厳しい値にするので、より有害物質排出の抑制を図られると考えている。</p>
10		生ごみを分別収集するというのであれば、資源循環型施設で乾燥させ、臭気等が出ないようにして堆肥化する方法を今後の方法書等で検討してほしい。(回答不要)	/

No	項目	質問・意見等	回答
11	ごみ減量化について	<p>予定している焼却炉の規模は144トン/日ということで、これは将来的にごみの量が減少することを前提とした数字だと思う。そこで上田市では昨年から、ごみ量削減の1つとして「生ごみリサイクル推進プラン」について取り組んでいるかと思うが、何か進展はあるのか教えてほしい。</p>	<p>上田市では、昨年8月に策定した「生ごみリサイクル推進プラン」を進めるにあたり、生ごみ堆肥化施設の建設について関係する自治会との調整等もある関係で、現時点では公表できる状況ではないが、着々と事業は進めている。</p>
12	最終処分場について	<p>広域連合の方針では、資源循環型施設の建設地以外の市町村で最終処分場を建設することになっているかと思うが、今の最終処分場の進捗状況について教えてほしい。</p>	<p>資源循環型施設の建設地以外の市町村で最終処分場を建設するという方針は以前から変わらない。</p> <p>現時点では最終処分場に係る要件を整理している状況。今後も関係市町村を交えて、協議をしていく。</p>
13	熱利用について	<p>他のクリーンセンターでは、ごみを焼却した際に発生する熱を利用して発電している事例もあるが、資源循環型施設ではどのように考えているのか教えてほしい。</p>	<p>ごみを焼却した際に発生する熱は、電気や温水、蒸気等で再利用したいと考えている。</p> <p>利用先としては、まずは施設内利用を考えているが、余剰分については、地域住民の皆さんに利用いただける方法を検討していく。</p>
14	炉構成について	<p>炉構成は現状3炉を基本ということになっているが発電効率を考えると、2炉の方が良いかと思う。</p>	<p>炉数については、環境影響評価と並行して策定する施設基本計画で総合的に検証し、地域住民に御理解いただけるよう検討していく。</p>